



中野区長と 外国人留学生 の懇談会

～外国人も日本人も
住みやすいまちを
めざして～

2019.7.3

明治大学の学生ら10名が参加

懇談会の概要

本懇談会は、中野区と明治大学国際日本学部山脇ゼミの共催、中野区観光協会と中野区国際交流協会の後援のもと、明治大学中野キャンパスにて、2019年7月3日(水)に開催された。

4つのサブテーマ

- (1) 住宅探し
- (2) 近所との付き合い
- (3) ゴミ出し問題
- (4) 地震に対する備え

懇談会の趣旨

外国人も日本人も住みやすいまちを目指すにはどうしたらよいか、留学生、日本人学生と中野区長がテーブルを囲んで意見を交わし、フロアから地域関係者も参加して、共に考える場とする。

参加者	出身国
コウ シンイ (明治大学 4年)	台湾
イ スンジュ (明治大学 3年)	韓国
徐 アヨン (明治大学 3年)	韓国
鄭 乃云 (イーストウエスト日本語学校)	台湾
グエン ティ キム フォン (イーストウエスト日本語学校)	ベトナム
ギョウトウニ (東洋大学大学院1年)	中国
ユヤエーアウン (国際短期大学 1年)	ミャンマー
チャン ティー ミー ユイン (国際短期大学 1年)	ベトナム
新井 智大 (明治大学 3年)	日本
清古 裕莉 (明治大学 3年)	日本
酒井 直人 中野区長	日本
山脇 啓造 明治大学教授	日本



国際日本学部 山脇ゼミ

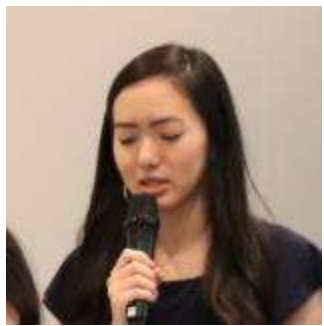
2013年度に国際日本学部が中野キャンパスに移転して以来、中野区における多文化共生のまちづくりに向けて、活動している。

発行：明治大学 山脇ゼミ
編集：イ・スンジュ、小路菜々実
発行日：2019年10月1日

住宅探し



外国人留学生の生活に関する調査報告



太田絵里花
(山脇ゼミ10期)

ディスカッションを始めるにあたり、事前に行った、外国人留学生のアンケート調査の報告をした。

まず、日本での住居探しについて、外国人であるという理由で、門前払いを受けてしまうケースが多々あり、また保証人制度が複雑であることが指摘された。

次に、ごみ出しについては、分別のルールが明瞭ではなく、そのような説明で使われている日本語も難しく、分かりにくいという意見があった。

地域の掲示板や自宅に届く書類については、説明が分かりにくいので、イラストなどを使った視覚的な工夫が必要だという声があった。

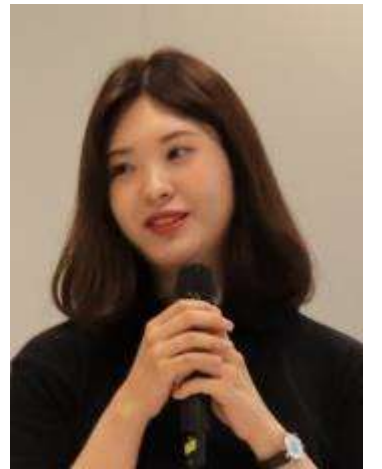
最後に、病院では、症状の説明などをする際に、普段は使わないような専門用語が必要とされる為、日本語が流暢でない留学生は苦勞をしているという。



コウ シンイ
(明治大学 4年)
台湾出身(新宿区在住)

外国人としての生活

- (1)現在の家を探す際、外国人であるために一度断られた。しかし、学生証や電気代の明細などを見せ、しっかり支払いをしていることを証明して交渉、入居を認められた。
- (2)近所との付き合いは、会った時に挨拶程度はする。日本のマンションは建物と建物の距離が近いため、プライバシー面で心配になる。
- (3)ゴミ出しでは、各種のごみを出す曜日が分からなかった。
- (4)地震の対策としては、バッグを用意し、パスポート・水・スリッパなどをベッドの下に準備している。



イ スンジュ
(明治大学 3年)
韓国出身(墨田区在住)

ビザのため借りれない部屋



- (1)留学生ビザは2～4年だが、日本語学校のビザは1年半しかもらえない。部屋探しでは、2年以上という契約条件が多く、困った。
- (3)ルームメイトの話では、自分は正しい場所に出していたのに、日本人からちゃんと出せてる？って話しかけられたそう。
- (4)地震について考えたことがなく、もし来たらそのまま家で待っている。大きい地震が来たら近所の平和の森公園に行く。

ギョウトウニ (東洋大学 大学院一年生)
中国出身(中野区在住)

外国人であるがために 入居を拒否された

- (1)保証人がいないと借りることができなかった経験がある。現在沼袋の駅から少し離れたところに住んでいるが、それは中野駅近くの部屋は外国人という理由で断られたから。
 - (2)日本のアパートは壁が薄く、隣の声が聞こえるのが難点である。それもあり、隣が男の人だと会っても目をそらしてしまう。
 - (4)災害時は近くの小学校が避難所であるが、1人で不安になるより、30分歩いて大学に行った方が安心する。
- ☆支払いの書類がよく届くが、難しい漢字だらけで全て理解することはできない。



徐 アヨン (明治大学 3年)
韓国出身(中野区在住)

近所との暖かい交流

- (1)中野区の不動産屋で外国人はダメだと言われた。大家さんが日本人より台湾人の場合の方が借りやすかった。
- (2)隣に引っ越してきた人から、クッキーとメッセージを頂いたが、日本のマナーが分からず、どうしたらいいのかわからなかった。
- (3)普通のゴミとは出し方が違う粗大ゴミに関して、どう処理すれば良いのかわからなかった。ゴミ出しに関する情報を得るのは大変だった。
- (4)初めて地震を体験した際はとても緊張した。普段は地震のことを気にしていない。

近所との付き合い



仲良い近所付き合い

(2)同世代の子どもが多いため、小学校や中学校からの繋がりで親同士も仲良くなった。野菜をもらったり、届けてもらったりもする。

(4)災害時は、住んでいる地域ごとに指定された避難所（＝小学校）があり、小学校の頃から避難訓練も何度も行っているから、迷わずそこへ行くとする。



清古 裕莉（明治大学3年）

日本出身（横浜市在住）

ゴミ出し問題/ 大地震に対する対策



母国と異なるゴミ出しの問題

(3)ゴミ出しは、何曜日にどんなゴミを出すのかということ把握するのに苦労した。母国とのゴミ出しのルールが違って、少し面倒くさいと思った。

(4)地震が来たら、近くの公園に避難すると思う。

チャン ティー ミー ユイン
（国際短期大学1年）

ベトナム出身（中野区在住）



中野区の有用なアプリ



(3)中野区の広告で、ゴミ出しに関する情報をまとめたアプリを知り、よく使っている。英語バージョンを使っているが、とてもわかりやすい。便利！

(4)ミャンマーは地震がない国。小規模の地震でも怖かった。大きな地震の場合、パスポートを持って頭を帽子などで守るという対策を考えている。

ユヤエーアウン（国際短期大学1年）
ミャンマー出身（中野区在住）

日本でのコミュニケーション

(1)住居は、ベトナム人の大家さんの物件に入った。

(4)地震の時は、友達の家に行く。そのほうが1人よりは安心だと思う。

☆日本語のコミュニケーションの時、若者言葉、年配の方に対する敬語などがわかりにくい。



ベトナム出身（中野区在住）

グエン ティ キム フォン
（イーストウエスト日本語学校）

中野区での1人暮らし

(2)イベントなどを通した関りはないが、会うと近くの高齢者の方が「行ってらっしゃい」や「おかえり」と声をかけてくれるのが嬉しい。

(3)可燃ゴミと資源ゴミの回収場所が別々の場所にあり、初めは戸惑った。

(4)地震には慣れているため、さほど大きな揺れでなければ何もしない。



新井智大
（明治大学3年）
日本出身
（中野区在住）

難しい保証人制度

(1)住居を申請する際、保証人がいないと入居できなかったため困った。保証会社は料金が月1万円も掛かるため、保証人の必要のないレオパレスに入ることにした。

(4)避難所がどこかわからない。日本語学校、もしくは交番に行くと思う。

☆日本語の勉強はしているが、まだ得意ではないため、日本人の会話はスピードが速く、聞きにくい。



台湾出身（中野区在住）

鄭 乃云
（イーストウエスト日本語学校）

来場者からの質問

母国から日本に来る人にアドバイスをお願いします。

徐さん: 国が違えば、環境が全て変わる。このことが頭にあるかないかによって生活の質は変わってくる。日本に来る前から日本について学び、きちんと知ったうえで来た方が楽しめる。

コウさん: 台湾と日本の文化は近いが、異なる部分もたくさんある。文化の違いは全て勉強になる。困難は全て、勉強として、挑戦として受け止めれば楽しめる。

ギューさん: 教科書では学べない、日常生活で使える言葉を覚えた方がいいと思う。文章ならば単語は調べればいいけど、直接の会話は辞書使うことができず、難しい。

編集担当者の感想

山脇ゼミ3年 李承注(イ スンジュ)

実際に区長と留学生の対話を聞いて、留学生がどのような問題を抱えているか、再認識することができた。私は企画するだけでなく、当日は一留学生として懇談会に参加したが、様々な国から来た留学生と意見を交換することができてとても楽しかった。このようなイベントを今後とも行っていくことで、中野区は更に多文化共生社会へと前進すると考える。

山脇ゼミ3年 小路菜々実(コウジ ナナミ)

今回懇談会の企画運営に携わって、区長を交えた懇談会というのは、留学生の意見が区政の改善に直接繋がる良い機会だと実感した。地域の皆さんの来場も多く、留学生の抱える問題や区の働き、山脇ゼミの活動について区民に知ってもらえるきっかけになったと思う。また、外国人だけでなく日本人にとっても住みやすいまちにしていきたいと思った。

おわりに

酒井区長

「知らない国に来て友達ができればいいが、誰も助けてくれないという状況はつくりたくない。そうならないようにするのは自治体の役目。住みやすいサービスやセーフティネットを考えていく必要がある。

まずは友達をつかって、困った時には助け合ってほしい。いろんなコミュニティに属せるような環境を整えていきたい。町会、自治会などの人は、外国人と交流したいと思っているが、どうしたらいいかわからないようだ。せっかく中野に住んでいるから、地域の人と知り合うチャンスを提供できたらと思います。」



山脇教授

「2013年度に中野キャンパスができ、国際日本学部が移転して以来、このフォーラムを始めとして、中野区と様々な連携をしてきた。

2019年度に中野区に文化・国際交流課ができたので、今後さらに連携を深めて、具体的な多文化共生のアクションにつなげていきたい。」

